

1 【活動の趣旨】

全学年の児童に対して、ふるさとの人や自然、くらし、文化に愛着や誇りを育む機会にするために、環境教育を核に地域協働合校事業を進めている。全校の学びの成果を展示物にまとめ、「渋川E（いいまち）S（しぶかわ）D（だいすき）ミュージアム」を開館して、保護者や地域の人々に発信している。

2 【特徴的な活動内容】

○「滋賀の郷土料理学習」5年生

滋賀の5つの食文化財を中心に郷土料理の魅力について考えた。学習では、えり漁の漁師を招き、琵琶湖の現状について学ぶとともに、琵琶湖の魚貝を使った郷土料理「湖魚の佃煮」や「アメノイオご飯」を試食して味わった。日野菜漬けの魅力に迫るため、日野菜漬けの工場から遠隔授業を行い、漬物作りの工程や働く人々の思いについて学びを深めた。また、日野町から和菓子職人を講師に招き、丁稚羊羹作りを実施した。さらに郷土料理に関する学習の成果を地域の人々に発信するために、「滋賀の郷土料理博物館」を開館した。



【えり漁の漁船上からの授業】

○「世界農業遺産学習」6年生

滋賀県が登録を目指す「世界農業遺産」についての学びを深めた。琵琶湖と共生してきた滋賀の農林水産業の魅力を考えることを通して、郷土への愛着や誇りを深めることをねらっている。郷土の農産物の中から「米」「野菜」「茶」をテーマに選び、生産者と出会ったり、農産物を味わったりといった体験を数多く取り入れた。学習のまとめでは、滋賀の農産物やそれらを使った郷土料理の魅力を紹介する「渋川ESDミュージアム」を開館させた。また、日本農業遺産にも認定された魚のゆりかご水田米の米ぬかや、地元草津市の花でもあるアオバナの粉末を使った石けんを作って、農産物の魅力をPRする活動を行った。三重県への修学旅行では、三重の漁業・林業に学ぶとともに、滋賀の農業の魅力を発表して伝えた。

3 【実施に当たっての工夫】

ゲスト講師に学校へ来ていただけない場合でも、現場からテレビ会議システムを使った遠隔授業を行ってきた。琵琶湖船上から漁業の様子を伝えたり、魚のゆりかご水田から魚道が整備されている様子を伝えたりした。農園から生中継して、野菜や米やお茶の栽培方法の解説を聞きながら学習した。

4 【事業の成果】

本報告では、2事例であるがどの学年でも地域の方に協力を得て子ども達の豊かな体験の場・学習の場を提供していただいている。活動を通して子どもたちは地域に対する愛着を育み、地域行事に積極的に参加する児童も多い。また、保護者や地域の方々にも地域のことを知ってもらう機会となっている。テーマの通り、子どもも大人も活動に関わることで学び、ふれ合いを深めている。

5 【事業実施上の課題】

同じ活動でも、子どもの実態に合わせて工夫の余地がある。毎年同じ活動にならないように、めあてをしっかりと設定して見直しをもって取り組みたい。